

災害対策本部および災害調査対応本部の設置訓練を行いました（2018/11/7）

テーマ：災害対策本部、災害調査対応本部、防災・業務継続計画（BCP）、大学間協力
場所：災害科学国際研究所(仙台市青葉区)

11月7日(水)午後、東北大学災害科学国際研究所において、豪雨が続く中で仙台市内を南北に走る長町一利府線断層帯を震源とする地震（M7.5）が発生するという複合災害を想定した災害対策本部設置及び災害調査対応本部設置訓練を行いました。両本部の設置訓練は、2015年、2017年に続き、3回目の実施となります。

本訓練は、当研究所の消防・防災委員会（委員長：丸谷浩明教授）を中心に教員と事務部が連携して企画・準備を行ったものです。災害対策本部（本部長：今村文彦研究所長）及び災害調査対応本部（同）は、現在は当研究所の「防災・業務継続計画（BCP）」に基づいており、このBCPの習熟と内容改善も訓練の目的としています。さらに、近距離に立地する宮城教育大学の防災教育未来づくり総合研究センターと当研究所が本年3月に締結した相互連携に関する協定に基づき、初めて防災訓練での連携を行う場ともなりました。

当日は、3日前からの豪雨の中、13時に仙台市内を震源とする最大震度7（本研究所は震度6強）の地震が発生したとの想定で開始され、自衛消防隊が出動し、所内全員で在室での安否確認訓練を行いました。並行して、本部会議室の設営訓練を行い、その後、当研究所の教職員約40名が参集して、段階的な状況付与を受けて災害対策本部の活動を行いました。主な被害想定は、次のとおりです。

- ・当研究所がある青葉山キャンパスへのアクセス道に土砂崩れ等が発生し、3ルート通行不能。
残る八木山方面のルートも橋に段差ができ、自動車が徐行通行のみ可能
- ・地下鉄、鉄道は運行停止、路線バスも青葉山は運行せず
- ・停電（当研究所は非常用発電機を作動）、電話・携帯電話は輻輳、断水

災害対策本部会議では、所内の重大被害の集約と大学本部への至急報告、学生・教職員の帰宅をどうするか模擬討論などを行いました。

宮城教育大学との連携では、当研究所の学生が足を骨折したとの想定で救護班・医学系教員が応急の固定を行った後、同大学に無線で連絡を取り、救護班等がけが人役を公用車で同大学の保健管理センターに搬送し、同センターの所長（教授・医者）および看護師に応急処置を実施していただく訓練を実施しました。一方、宮城教育大学からは、学生寮の状況確認のための衛星携帯電話の使用要請等があり、当研究所がそれに応じるという協力の訓練を行いました。

さらに、当研究所の使命である災害の調査分析を推進するため、災害対策本部に続いて災害調査対応本部の会合を開催しました。同本部は、地震・地殻変動班、津波調査班、地震被害調査班、地すべり・地盤災害班、情報分析班、民間部門調査班等により構成されており、順次、想定した災害に関する収集情報の照会や分析、被害予想などを報告し、今後の調査方針や地元自治体との協力の可能性などを議論しました。そして、この場に宮城教育大学からの研究者をリエゾンとして迎え、議論に加わっていただきました。

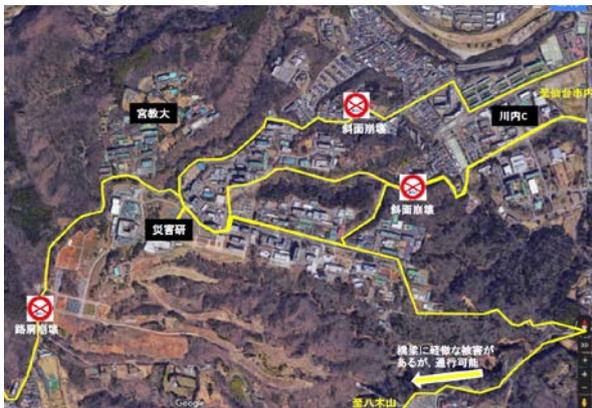
最後に、訓練の振り返りを行い、今後の改善点を整理して訓練を終了しました。



安否確認の集計の様子



災害対策本部会議



災害研周辺の道路被害想定



けが人の搬送



災害調査対応本部会議



訓練の振り返り